

平成31年度学校自己評価システムシート（県立大宮高等学校）

目指す学校像	勉強と部活動等の両立の実践と自主自律の精神の涵養により、 高い志と強い使命感を持ったトップリーダーを育成する学校
--------	---

重点目標	1 豊かな人間性と創造性を備えた人材を育成する。 2 学力の向上を図り、生徒の第一志望の進路を実現する。 3 安心して通える学校づくりと積極的な情報公開により、県民の期待や信頼に応える。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	7名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					達成度	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況		
1	リーダーの育成・人格の形成 大高生は真面目で素直であり、学習や部活動、学校行事等に熱心に取り組み、充実した高校生活を過ごしている。そして、将来日本をリードし国際社会に貢献できる人材となるため、人間性・創造性の伸長を目標としている。そのため、生徒一人一人に在り方生き方の探究を進めさせるとともに、主体性に基づく生徒の協働的問題解決力をより一層育成することが課題である。	①多様な価値観やモデルに触れて、自己の在り方生き方を探究する。	ア 講演会や総合的な学習(探究)の時間を通して多様な価値観やモデルを提示し、自己の在り方生き方を考えさせる。 イ 県主催の事業や学校外でのボランティア活動等への参加を促す。 ウ 大学セミナー、最先端研究施設・大学研究室訪問、課題研究等、理数科実施の多彩な取組を通して、科学技術立国日本を支えるトップリーダーを育成する。	ア 生徒の提出物や生徒面談等を通して、達成したと評価できるか。 イ 各種事業合わせて延べ50名以上の生徒の参加希望があったか。 ウ 保護者アンケートの結果で肯定的回答が80%を超えたか。	概ね達成 アイ 「県立学校グローバルプロジェクト」には9名の生徒が希望、校内及び県の選抜の結果4名が参加した。参加生徒は全校集会において全生徒へ活動状況を報告した。 東大の准教授を講師とした大学セミナーを7月10日に本校で実施。7月23日に生徒26名が東大研究室を訪問、理数科1年生が10月31日にKEKを訪問、2月5日に世界的建築家である卒業生による授業を受講。理数科2年生が校内課題研究発表会を2月6日に実施する。 ウ 保護者アンケートでも、理数科を中心とした特色ある理科・数学教育の実施に関して肯定的な回答が約80%となっている。	B	卒業生の協力を仰ぎ、多様な価値観やモデルを提示し、自己の在り方生き方を考えさせる。 県主催の事業や本校独自の事業を通して社会のトップリーダーを目指す生徒の育成を続ける。 理数科を中心とした普通科を含めた特色ある理科・数学教育及び文系志望者にも対応した実践を続ける。
		②主体性を持って、他者と協働して問題解決にあたる姿勢を身に付けさせる。	エ 文化祭等の学校行事や部活動、国際交流活動等を通して、積極的に他者と協働して活動させる。 オ 県事業「未来を拓く『学び』プロジェクト」等を活用して、校内で主体的・対話的で深い学びを推進するとともに、県事業「科学技術立国を支える次世代人材育成プロジェクト」等や「エンパワーメントプログラム」への参加を促す。	エ 保護者アンケートの結果で肯定的回答が80%を超えたか。 オ 各種事業合わせて延べ50名以上の生徒の参加希望があったか。	ほぼ達成 エ 保護者アンケートの結果から部活動や学校行事への参加を目指す本校の方針に約85%の保護者が、国際交流事業に対しては約70%の保護者が肯定的な意見を持っている。 オ 未来を拓く『学び』プロジェクトの研究で参加した教員4名、県事業「科学技術立国を支える次世代人材育成プロジェクト」に参加した生徒10名、本校実施「ドイツ短期派遣」15名、「エンパワーメントプログラム」への参加生徒25名であった。	A	学校行事や部活動を生徒主体で引き続き実施する。また、国際交流活動(受入)等を通して、積極的に他者と協働する活動を続ける。 県主催の事業や、本校独自で実施する事業への参加を引き続き促し、生徒の変容を図る。
2	学力向上と希望進路の実現 本校がこれまで取り組んできた進路指導は、学校関係者評価においても県民からも高評価を得、大学進学実績等で県民の期待に応えてきた。 高大連携改革等国の動向等を踏まえ、学力向上の取組をより一層充実させ、教科指導では主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組み、批判的思考力・論理的表現力の育成を更に推進する。また、生徒の進路希望の実現を目指す取組を続ける。	①授業改善及び「批判的思考力・論理的表現力」の育成を一層推進する。	ア 教員相互の授業見学等教科指導力の向上に引き続き努めるとともに、各種研究会に参加して最新の高大連携改革の動向や指導技術等を教科指導に反映させる。 イ 主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を推進する。 ウ 総合的な学習(探究)の時間を利用した「批判的思考力・論理的表現力」を高めるプログラムの開発・実施を引き続き行う。	ア 保護者アンケートの結果で肯定的回答が80%を超えたか。 イ 主体的・対話的で深い学びについて各教員が自己評価シートに記載し、達成度b以上が90%を超えたか。 ウ 生徒の提出物や生徒面談等とおして、達成したと評価できるか。	概ね達成 ア 「本校の教師は、生徒の教育に熱心である」「本校の授業内容に誇り感がある」に対する保護者アンケートは約80%が肯定的な回答である。大学入試改革で予定されていた英語の4技能検定導入に関し、2年生全員に校内でGTECを実施した。 イ 主体的・対話的で深い学びを意識した授業において教員の多くが自己評価シートに記載し、実施しつつある。 ウ 総合的な学習(探究)の時間やLHRを利用した「批判的思考力・論理的表現力」を高めるプログラムを実施した。	B	様々な機会を活用し教科指導力及び御指導力の向上を引き続き目指す。また、その方策として、主体的・対話的で深い学びを導入する。 引き続き大学入試改革の情報に注意し、生徒の進路希望の実現に向け素早く動く体制づくり及びその対応を行う。
		②系統的な指導と個に応じた指導をバランスよく行う。	エ 3年間の計画に基づき、生徒の状況を踏まえ、進路懇話や講習等を実施する。 オ 生徒理解に基づき、生徒の実情に即した面談・個別指導を丁寧に行う。	エオ 保護者アンケートの結果で肯定的回答が80%を超えたか。	ほぼ達成 各担任が定期的な面談を確実に実施した。本校の進路指導目標や進路指導の実施については保護者アンケートの結果も肯定的な回答が約80%である。	A	進路懇話や講習等を計画的に実施する。また、生徒理解に基づく、面談・個別指導を丁寧に行う。
3	安全・安心の確保及び生徒募集の充実 学校生活の中での生徒の心身の健康、緊急時の対応、施設・設備の整備・改修、生徒指導、各種安全・事故防止指導等について、着実に取り組む。 学校説明会、校外での説明会等、HPでの発信を主な手段とし、大高生の学校生活がありのまま伝わるようにし、本校の求める生徒像が伝わるように努める。	①大高で充実した生活を送れるよう、きめの細かい指導を行う。	ア 年6回の担任面談を行う。 イ 新入生に対し「オリエンテーションキャンプ」を実施し、大高生活への円滑な移行を図る。 ウ 学校独自のスクールカウンセラーを依頼する等、生徒の心身の健康に配慮する。	ア 予定通り実施したか。 イ 生徒アンケートで、肯定的回答が80%を超えたか。 ウ 生徒面談等とおして、達成したと評価できるか。	ほぼ達成 アイ 各クラスとも担任との定期的な面談を4回以上実施。また、必要に応じてより多くの面談を実施し、生徒の状況を把握して、きめ細やかな指導を行った。 ウ 学校が独自に依頼したスクールカウンセラー(SC)と生徒の面談の場を設定し、支援を継続した。	A	新入生には、オリエンテーションキャンプを実施。また、定期的な担任との面談や学校独自のSCを活用して、生徒の状況の変化を早めに把握し対応するよう努める。
		②様々な機会を利用して本校を紹介し、生徒募集に努める。	エ 学校説明会等や校外での説明の機会を積極的に活用して、生徒募集に積極的に取り組む。 オ 本校HPを活用して、学習、行事、部活動等平素の教育活動を紹介する。	エオ 参加者数、参加回数、HPの更新回数、保護者アンケート、募集倍率等を踏まえて、達成したと評価できるか。	ほぼ達成 エオ 北校舎の大規模改修のため学校外で行った夏季休業中の説明会を含め、学校説明会を計画通り実施した。学校説明会参加者のアンケート結果もほぼ良好であり、12月15日現在の志望倍率は、理数科1.38倍、普通科1.56倍である。 教務の担当や各部署の顧問が、HPの更新をできるだけ行った。	A	普通科・理数科の学校説明会や外部教育機関を利用した校外の説明会を計画的に実施する。 本校HPを活用して、学習、行事、部活動等平素の教育活動の紹介を引き続き行う。

学校関係者評価	実施日 令和2年2月22日
学校関係者からの意見・要望・評価等	全体を通して今年度から保護者アンケートの対象を広げた点(PTA役員のみから任意の保護者を加えた)は良かったと思う。多少評価が辛くなっても、難しい意見に向き合うことが良くなるためには必要である。 ドイツの姉妹校との交流事業は受入とセットのために参加が制限されてしまう部分があるが、エンパワーメントプログラムなどは良い企画であると思う。もっと多くの生徒が参加できるような環境づくりをお願いする。 大宮高校は入学してからも大変だが、学校生活は充実している。様々な課題を乗り越えることで自分自身の成長を感じている。
各教室のプロジェクターを活用したり、主体的・対話的で深い学びを意識した授業を展開したりして真の学力をつける授業を目指している様子が見られる。これからもこのような取組を続けて欲しい。 社会環境(経済情勢・大学入試制度など)が変化していく中で、生徒も先生も大変な状況にあるが、生徒の希望進路の実現に取り組んでほしい。	施設は古いから清掃等しっかり行われており、全体的に学習環境が維持されていると感じる。しかし、修繕が必要などところもあるようであり、優先順位をつけて、改善をお願いしたい。 課題を抱える生徒に対しては、SCの力も借りて早めの対応をお願いする。 今年度はHPもリニューアルされて更新数も増加しているようである。引き続きお願いしたい。